

神社の仏 寺院の神

全国に広がった「神仏習合」

鳥根県、とくに出雲地方には出雲大社をはじめ、古くて大きな神社が多く、鳥根を「神様の国」と思う人が多いかもしれません。しかし安来市の清水寺や平田市の鱈淵寺のような、古くて大きな寺院も数多くあります。鳥根は古くから、神も仏も多い土地なのです。

よく、神と仏を一緒にすると「ケンカをする」と言います。しかし鳥根が、神と仏のケンカが絶えない土地として有名なという話は聞いたことがありません。昔の神(神道)と仏(仏教)は、現代の私たちが想像する以上に仲がよかつたらしいのです。神道は日本古来からあり、仏教は外国から来たものなので、仏教伝来当時には衝突したこともありません。しかし、しだいに両者は混ざりあい、神が寺院の守り神(鎮守神)となったり、神社を守る寺院(神宮寺)が建てられたり、神前における読経が行われたりするようになりまして、「この考えがさらに進んだものが、本地垂迹説」です。「インドにいる仏や菩薩が、日本で神に姿を変えてわれわれを救う」と考えるもので、これにも

とついで神社の境内にお堂や塔が建てられたりもしました。平安時代の末には、天照大神の本地すなわち本来の姿は大日如来であることが、八幡神の本地は阿彌陀仏であるという説が成立しています。このような現象を「神仏習合」と言い、全国的に広まっていきました。

鳥根にある「神仏習合」の神社、寺院

鳥根でも、たとえば慶長一四年(一六〇九)に杵築大社(出雲大社)を描いた「杵築大社近郷絵図」を見ると、境内に三重塔や鐘撞堂、輪蔵お経を入れる蔵など、仏教関係のものが描かれています。また承応二年(一六五三)に黒沢石齋という儒学者が書いた「懐橋談」という出雲地方の旅行記にも、杵築大社には仏像や経が数多く見られると書かれています。社殿には「御正体」と言われる鏡に仏像を鑄造したものが数多く懸けられていたとあり、出雲大社も「神仏習合」の例外ではなかったことを物語っています。しかしこの杵築大社では、寛文年間(一六六一〜

七二)ではやばやと神仏分離政策が推し進められ、仏像など仏教色のものが神域外に移されます。この政策は、廃仏毀釈運動(寺院を破却し、僧侶を還俗させるなどの仏教廃止運動)を巻き起こしていきます。この運動の激しかった地域として明治初年の隠岐があげられますが、ここでは現在も壊された仏像や首の折られた石仏などが多数残り、運動の激しさを物語ります。

松江市の成相寺には、二体の神像が安置されています。笏を手にした男神像や扇を手にした女神像、さらにお坊さんの姿をした僧形像など、バラエティに富んでいます。「お寺に神像？」という疑問も、神と仏の仲のよかつた時代を考えれば、納得がいくでしょう。また八束郡鹿島町の佐太神社には、千手観音像と阿彌陀如来像を描いた鏡が一面ずつ伝わっていますが、これも同じことです。

もちろん鳥根の寺院にはずばらしい仏像が、神社には神像がそれぞれ数多く安置されていることは言うまでもありません。いずれの像も、地元の人びとの篤い信仰を長年受け続けています。

時代	飛鳥	古墳	弥生	縄文
794年	722年	538年		
743年				
742年				
720年				
713年				
710年				
奈良時代				
平安時代				

神マツリ原風景 神を渡ってきた仏

*もつと知りたい人のために

第1部「神マツリの原風景」に関するもの

- 野本寛一 『信仰環境論の試み 神々の風景』 白水社 一九九〇年
- 大阪府立弥生文化博物館 『弥生の神々―祭りの源流を探る―』 展示図録 一九九四年
- 滋賀県立安土城考古博物館 『春期特別展 弥生の祈り人―よみがえる農耕祭祀―』 展示図録 一九九四年
- 滋賀県立安土城考古博物館 『春期特別展 祭と政―古墳時代のまつりのかたち―』 展示図録 一九九五年
- 石野博信他 『古墳時代の研究3 生活と祭祀』 雄山閣 一九九〇年
- 岡田精司 『神社の古代史』 大阪書籍 一九八五年
- 上田正昭編 『出雲の神々 神話と氏族』 筑摩書房 一九八七年
- 上田正昭編 『古代を考える 出雲』 吉川弘文館 一九九三年
- 千家尊統 『出雲大社』 学生社 一九六八年
- 大林組プロジェクトチーム 『古代出雲大社の復元 失われたかたちをもとめて』 学生社 一九八九年
- 加藤義成 『修訂出雲国風土記参究』 今井書店 一九九二年
- 上田正昭 『古代の祭祀と典礼』 岩波講座 古代歴史1 岩波書店 一九七五年
- 『神道大辞典』 臨川書院 一九六九年
- 武井豊治 『古建築辞典』 理工学社 一九九四年
- 河上貢 『鳥根県の中世社寺建築』 『鳥根県近世社寺建築緊急調査報告書』 鳥根県教育委員会 一九八〇年
- 石塚尊俊 『出雲信仰』 雄山閣 一九八六年
- 上田常一 『竜蛇さんのすべて』 園山書店 一九七九年
- 『鳥根の民俗芸能』 鳥根県教育委員会 一九八九年
- 『鳥根の祭りと伝説芸能』 (財)鳥根県観光連盟 一九九四年
- 石塚尊俊 『西日本諸神案の研究』 慶友社 一九七九年
- 石塚尊俊 『神去来』 慶友社 一九九五年
- 石塚尊俊 『出雲隠岐の伝説』 第一法規 一九七七年
- 島重海 『第二編 神話の世界』 大社町史 上巻 大社町 一九九一年
- 倉野憲司・武田吉 校注 『古事記 祝詞 日本古典文学大系1』 岩波書店 一九九三年
- 坂本太郎外 校注 『日本書紀 上』 岩波書店 一九九三年
- 第2部「海を渡ってきた仏」に関するもの
- 加藤義成 『校注出雲国風土記』 千鳥書房
- 近藤正 『山陰古代文化の研究』 近藤正遺稿集刊行会 前島己基 『日本の古代遺跡20(鳥根)』 保育社 一九八五年
- 鬼頭清明他 『原像日本4 技術と交流 海を越えてきた匠たち』 旺文社 一九八八年
- 坪井清足他 『古代史発掘9 埋もれた宮殿と寺』 講談社 一九七四年
- 町田章編 『古代史復元8 古代の宮殿と寺院』 講談社 一九八九年
- 河原由雄監修 『仏像の見方』 見分け方百科』 主婦と生活社 一九九三年
- 『週刊朝日百科日本の歴史』 朝日新聞社 一九八七年
- 『鳥根の彫刻I』 鳥根県文化財愛護協会 一九八五年
- 『鳥根の彫刻II』 鳥根県文化財愛護協会 一九八五年
- 西山杏太郎監修 『仏像を旅する』 (山陰線) 至文堂 一九八九年
- 『鳥根の文化財』 鳥根県立博物館 一九九九年
- 佐藤知範 『仏像の見方』 丙東社 一九九五年
- 西村公朝 『祈りの造形』 日本放送出版協会 一九八八年